

## 経営者への活きた言葉

### 飽きずに基本を追求する 山崎 将志(アジルパートナーズ代長)

1. 消費者向けビジネスは、個人の時間の奪い合いといわれてきた。かつては専らプライベートの時間を奪い合っていたのだが、職場にパソコンが1人1台導入され職場でインターネットが使えるようになったことで、仕事の時間をいかに奪うかが主戦場になっている。
2. 時代の流れが速いせいか、新しい手法に飛びつく傾向も目立つ。商品開発でも同様に、コンビニの棚を見ている、商品のライフサイクルが短くなっていると実感する。だが、飽きているのは消費者ではなく、提供者のほうではないだろうか。あらゆる商品は、立ち上がりは収益性が低く、成長期を経て、衰退期に最も利益が出るものだ。米国の優良企業は、時間をかけてじっくり販路を広げ、客を増やし、衰退期の高収益ビジネスを満喫するという手法を知っている。それに対し日本企業は、果実を得る前に自ら諦めてしまう例が多い気がする。
3. 業績を伸ばしている人は、単純だが大事なことは飽きずに続けている。残念な人は、自分から飽きてしまう。飽きるのは客ではなく、自分であることを肝に銘じビジネスの基本を追求すること。スピードが強調される時代だからこそ、それが重要なのだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2013年2月16日号)

## 人事・労務について

### 快適な眠りが経済効果を生む

1. 睡眠不足や不眠による一瞬の気の緩みが事故や失敗を招き、人生を台無しにしてしまうこともある。日本大学医学部精神医学系の内山真主任教授らの研究によると、眠気による交通事故の増加、作業効率の低下や遅刻・欠勤などの影響による経済損失は、合計で年間3兆4000億円に上るといふ。逆に言えば、十分な睡眠時間をとり、質の高い睡眠を得ることができれば、経済効果につながっていく。
2. 質の高い睡眠とは、途中で目覚めることなく、熟睡感を味わえる睡眠のこと。眠りの質は、人生の質(QOL)に反映される。人生の3分の1は睡眠時間として費やされるのだ。社員の睡眠状況を確認することも、今後重要性を増すことになる。

(参考:「野村週報」:2013年4月22日号)